岡山大学医学部長　大塚愛二教授 表敬訪問

森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会　岡山　菅野孝明

１０月１１日に森永ひ素ミルク事件の中心地であり、ひ素混入の発見に尽力頂いた岡山大学医学部の現在のトップ大塚愛二医学部長に守る会メンバーが表敬訪問しました。

医学部長室に通され医学部の浜田教授と私たちが持参した、ＭＦ印のドライミルク缶の話をしていると大塚医学部長が来られました。守る会岡山の森脇委員長より今回お会いする機会を作って頂いたお礼と私たちの活動の説明をさせて頂きました。

大塚医学部長は私たちと同世代でこの事件にとても関心を持たれており、岡山県本部制作のＤＶＤ「森永ひ素ミルク事件」も見て頂いておりました。会見の中で私の方からＤＶＤを制作して感じた疑問を質問しました。「当時の大学の研究機関と企業の関係、なぜ全員治癒という判断が下されたのか？」医学部長からは「なぜそのような判断が下されたのかわかりません。なんらかの考えが有ってそう言ったと思うが、言わざるをえなかったのだと思う。今となっては推測ですが。」と医学部長も疑問を持たれていました。

平松さんより守る会活動が社会に受け入れだした頃の話が有り、ご協力を頂いた岡大衛生学教室の大平教授や青山教授の名前が出ると「ああ！」と先生たち目が輝きました。その当時の守る会の活動や官制岡山県検診の話に身を乗り出して聞いておられました。

官制岡山県検診では岡山の多くの名医が参加したにも関わらず「後遺症無し」の結果を導こうとした事について医学部長も「そこが私も一番の疑問に思う所です。一体何がその時どのように働いて判断の根拠になったのかがわかりません。」やはり現在の常識では考えられない時代であり、岡山の医学界でも大きな圧力が働いたのだと思います。現在の被害者に状況とこれから迎える高齢化に伴う衰えや病気についてご理解いただき、先進医療の岡山大学病院の今後のご協力をお願いし快諾を頂きました。

最後に大塚医学部長より「被害者の方も６０年以上苦しまれており、医療に係わる者として肝に銘じたいと思います。またこの事件に限らず健康被害を伴う事件に対して私たちはきっちりととらえる責任があると考えています。」この力強いお言葉を頂きこの会を終わらせて頂きました。